

就労支援分科会報告

社会福祉法人みどりの樹 寺田 志のぶ

「支援者としての醍醐味」

「私がこの仕事を続ける理由」

昨年度の作業所学会では、日々の支援を通して感じていた葛藤を報告してもらいました。そこから現状を見つめなおし、課題を明らかにし、自らの言葉で外部に発信することまでの一連の過程そのものに意義があると考えました。

具体的には、二名の方に葛藤も含めた実践報告をしていただき、参加者とともに考える機会とし、個々の支援の質の向上につなげるとともに、所属法人全体の活性化につなげていく場としました。

そして今年度は、このような職員の葛藤や困難さを乗り越えるその先には、私たち支援者が働き続ける本質的な理由があるのではないかと考えました。お互いに、うまくいかなかったことや成功体験などを語り合うところが学びの機会となり、葛藤もやり続ける根拠の一つと捉えなおすこと、それがこの仕事の大きな醍醐味ではないかと思えます。

そこで、今回のテーマを「支援者としての醍醐味」とし、葛藤や苦しさや向き合い続けたからこそ見いだせた、支援を通じた楽しさ・やりがい・人と人が関わり合うという事など、個々が感じているこの仕事における醍醐味に着目し、発表してもらいました。参加者の皆さんとの意見交換も踏まえて、改めて“私がこの仕事を続ける理由”を参加者それぞれが振り返り、まだ感じたことのない楽しさや自分とは違う楽しさの捉え方に触れることで、改めて明日からの「支援者としての楽しみ」につなげていきたいと考えました。そして、このモチベーションこそが支援の質の向上には欠かせない要

素であると考えます。

発表者① NPO法人 地域生活応援団あくしす 堀米美紀

「こなこな勤続十年」その成果と気づき

前々年度から分科会の場にて発表の機会を頂いています。一昨年は、一般就労と就労継続支援A型のサービスとの区別化や、それぞれが担う価値などが曖昧になりつつある自分、A型事業所としての役割への悩みを発信しました。そして学会の中で、その直面する事実と現状に向き合いながら、自分自身の気持ちと向かうべき方向性を点検・整理することができ、「働き方、またその捉え方は色々あっていい。それが障がいのある方の選択肢の一つになる」という答えの一つ得ることができました。

また昨年度は、全Aネット（就労継続支援A型事業所全国協議会）の研修へ参加し、A型事業所としての現状や、利用者・支援者・運営および経営：それぞれの立場が抱く思いはどこにあるのか、様々な事業所の話を聞き、現状を見つめなおす機会づくりを行いました。分科会での意見交換を通し、時代の変化の中で、自分たちの理念やミッションなど思いの根幹を貫くためにも、状況の客観視と分析を行い、法制度に訴えかけていく意識を持ち続けることの重要性に改めて気づくことができました。

そうした様々な葛藤の中で、気が付けば支援し続けている利用者の方も勤続十年を迎え、私自身の立場も新卒で知識の少ない新人から、事業所のサービス管理責任者を勤める役割へと変化しました。今年度の分科会発表では、「環境がもたらす本人ニーズへの影響」

という事例を通し、十年と言う歳月の中でご本人の希望の実現に向けた目標達成は勿論のこと、その支援を通して自身の成長やキャリアに繋がった自分への還元を「支援者としての醍醐味」として発表させて頂きました。自分のこれまでのキャリアを客観視する事で、管理者になることで見えた景色や気づきがある事や、先輩達と同じ悩みや道を通ってきたリンクへの気づき、またこの仕事でなければ『きつと経験できなかったこと』への喜びや楽しさを再確認することができました。

時代の変化、法制度の変化、自分自身のキャリアの変化：様々な変化とそれに伴う葛藤がある中にも、常にこの障害福祉という仕事の魅力があり、それが、私たち支援者が働き続ける理由と醍醐味なのだ実感することができました。

発表者② 社会福祉法人 復泉会 齋藤美穂子

「ともに学び成長できる喜び」 ～ 十年を振り返って ～
今回「支援者としての醍醐味」というテーマで発表の機会をいただき、自らの十年間を振り返りました。

入社当時、知識も経験もなく飛び込んだ福祉の世界は、わからないことだらけで、居場所のなさを感じ、辞めたいと考える日々を過ごしていました。そうした日々の中で、様々な人と出会い、話をし、ともに考えることができたことが、学びや気づき、そして自分と向き合うきっかけとなったのだと気がつきました。

自分自身と向き合ったことで、変わりたいという気持ちが生ええました。自分を知り、行動や考え方のクセを少しずつ修正していくことで、それまで何となく抱えていた生きづらさが少しずつ解消していきました。利用者さんとの関わりにも変化が生まれました。相手を知らうとし、行動の理由を考え、嬉しさや楽しさという気持ちを共有できるようになりました。利用者さんから学ぶことも多く、一緒に成長できていると感じられたことも、支援者を続けてこられ

た理由だと感じます。

『意識が変われば人は変われる』と実感でき、まだまだ学びたい、知りたいという思いから、社会福祉士・精神保健福祉士資格の取得に至りました。

今回の発表を通して、ともに考え、学び、成長できる人達がいることが、私にとって支援者としての醍醐味であると気がつくことが出来ました。そして、改めて自己覚知と自己研鑽、自分自身が幸せであることの大切さを感じました。

今後も、周りを巻き込みながら、ともに進化し、ともに幸せであり続けられるよう、学びと成長を継続していきたいと考えています。

まとめ

今回、図らずも二名とも十年を振り返る発表であり、また対照的な内容の発表でもありました。どちらも十年の歩みの中には、辛さや葛藤がありながらも、そこには利用者や他の職員の存在、出会いがありました。僅かな良い出会いが、成長のきっかけとなっており、共に学び成長できる喜びが、さらなる成長を呼んでいると感じさせ、実践報告でした。報告を聴きながら参加者はそれぞれ自分自身のこれまでと重ね合わせて振り返り、共感したところ、自身の葛藤などについて意見交換をしました。

意見交換の中では、支援についての課題と同じくらい、職場の間関係や意思統一など、チームマネジメントを課題と感じている人が多くいることがわかりました。今後の研修でこれについてテーマとしていくことも有意義ではないかと感じました。

今後もこの作業所学会の場が、実践報告をする場、自分自身を振り返る場としてあることこそが、作業所学のひとつとして部会が目指したいところでもあると考えています。